キオビエダシャク　よくある質問

Q:成虫がたくさん飛んでいます。すぐに防除した方がいいですか？

A：慌てなくて大丈夫です。成虫によって枯れることはありません。
防除は幼虫を対象に行います。幼虫による食害が確認されてからでも間に合います。
　成虫や蛹を対象とした薬剤はありません。

Q:薬剤は？

A:登録農薬として，トレボン乳剤（4000 倍），ロックオン（1000 倍），マツグリーン液剤２（100～250 倍），アディオン乳剤（4000～8000 倍）などがあります。各剤，使用回数に制限がありますので，異なる剤を組み合わせて散布すると効果的です。
　ロックオンは，H30 年度に新たに登録された薬剤で残効が長いのが特徴です。一度の散布で 2～3 ヶ月殺虫効果が持続します。
　トレボン乳剤，マツグリーン液剤２，アディオン乳剤の場合は，木を揺すって幼虫が糸を引いて垂れてくるのが容易に確認できる時期に散布するのが効果的です。散布後も数日おきに木を揺すり，多くの幼虫が垂れ落ちてくる場合は繰り返し散布します。
　これらの薬剤は，付着した部分のみで殺虫効果があり，散布後に伸びた新芽では効果はありません。新芽には改めて散布するなど，注意が必要です。

Q：年に何回発生しますか？

A:キオビエダシャクは年 4～5 回発生します。場所や気象条件によって異なりますが，成虫は，おおよそ 3 月～12 月に出現します。幼虫は 4～12 月に現れてイヌマキ等の葉を食害します。

Q:毒をもっていますか？触っても大丈夫ですか？

A：キオビエダシャクは，成虫・幼虫ともに人体に影響のあるような毒はありません。素手で触ってもかぶれたりすることはありません。
　なお，イヌマキやナギ由来のイヌマキラクトンやナギラクトンといった物質を体内に蓄えており，鳥や昆虫などの天敵による捕食を避けています。

Q：どこに卵を産み，何日でふ化しますか?　幼虫・蛹・成虫の期間はどれくらい？

A：キオビエダシャクは，樹皮の隙間に産卵します。産卵から間もない時期は緑色です。卵は約 10 日でふ化し，幼虫の期間は 1 か月です。幼虫の間はイヌマキ等の葉を食害し，その後幼虫は地表近くに潜り蛹になります。蛹に繭はありません。蛹の期間は約 15 日，成虫は約 2 週間生存し，花の蜜を吸うため各種の花に訪れます。一世代は約 2 ヶ月です。

鹿児島県森林技術総合センター
TEL:0995-52-0074　FAX:0995-52-0078
令和４年７月６日時点